

1.21 賢治・秀松 農民芸術祭

耀つ午後

(かがよ)

開催にあたって

宮沢賢治は、私塾「羅須地人協会」を立ち上げました。青年たちに農業技術を教えるかたわら、農業協同組合である「産業組合」の必要性を説き、また農における労働は「農民芸術」であるとして農民文化運動に取り組みました。

その賢治の生涯にとって、高橋秀松は大きな存在でした。両者は、盛岡高等農林学校いらいの盟友であり、交流も長く続きました。秀松は、戦後に郷里である名取に戻り、宮城の農業協同組合の創設に中心的な役割を果たすとともに、名取市の初代市長に就任しました。

しかし、これまで賢治と秀松の関係は研究者にもほとんど取り上げられていません。本会では秀松の再発掘を図ることを通して、農協や農民運動に新たな視点を提供したいと思います。

